

委員各位

## 第 394 回産業事情検討会のご案内

第 394 回の産業事情検討会を以下の通り開催致します。

当案内状と共に E メールによるご案内も送信しております。同封の葉書または E メール、FAX、または FAX 用紙の QR コードのいずれかで出席の有無をご連絡頂きますようお願い申し上げます。

### テーマ：岐路に立つ米国 D E I 経営の行方 —アファーマティブ・アクションを軸に読み解き、展望する

講 師：南 川 文 里 氏

同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科教授

司 会：大 塚 壽 広（㈱現代経営技術研究所 主任研究員）

日 時：2025 年 2 月 17 日（月） 15：00～17：00

開催方式：Zoom によるオンライン開催

今回は講師に南川文里氏をお迎えして岐路に立つ米国経営における D E I —Diversity Equity Inclusion（多様性・公平・包摂）—の行方を検討します。

多様性経営を掲げて D E I 目標を設定し、その達成状況を社会に公開していた米国の大手企業群が、トランプ氏の大統領当選確定後、次々にその目標設定の中止を決めています。多様性先進国の米国で何が起きているのか。米国の D E I 経営は今度どうなるのか。

それらを読み解き、展望するために南川氏に米国のアファーマティブ・アクションをめぐる変遷をお話いただきます。アファーマティブ・アクションとは、米国で実践されてきた積極的差別是正措置のことであり、大学入試においてはマイノリティ学生の進学を促進し多様性を実現する特別措置として、企業経営においてはマイノリティ社員・女性等の雇用・昇進の平等をはかるシステムとして活用されてきました。一方、それが逆差別であるという強力な批判が根強くあり、社会に軋轢を生み続けてきた歴史もあります。

氏の近著「アファーマティブ・アクション」（中公新書）はその有り様を構造的に描き出しています。アファーマティブ・アクションの動向を辿ることによって D E I コンセプトの基盤となる米国の価値観と D E I をめぐる社会の葛藤をより深く洞察することができ、それが私たち日本の未来への問題提起にもなっていくます。

氏を囲んで以上のお話をうかがうとともに今後の日本の D E I 経営についても相互検討します。現在、D E I の実現に取り組んでいる企業・部門の方々、また米国拠点にて米国人従業員を雇用し経営を行っている企業の方々にはとくにご参加をお勧めします。

#### <講師紹介>

日本学術振興会特別研究員、神戸市外国語大学准教授、立命館大学教授などを経て、現在、同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科教授。専門は、社会学、アメリカ研究（人種エスニシティ論、移民研究、多文化社会論）。

著書『「日系アメリカ人」の歴史社会学—エスニシティ、人種、ナショナリズム』（2007 年、彩流社）、『未完の多文化主義—アメリカにおける人種、国家、多様性』（2021 年、東京大学出版会、第 38 回大平正芳記念賞、第 3 回アメリカ学会中原伸之賞受賞）、『アメリカ多文化社会論 [新版] —「多からなる」の系譜と現在』（法律文化社、2022 年）など。



**現研** (株)現代経営技術研究所